

令和6年度第2回旭川市史デジタルアーカイブ検討会 議事要旨

日 時：令和6年8月30日（金） 午後6時00分から午後7時30分まで

場 所：旭川市総合庁舎2階 臨時窓口スペース

出席者：参加者9人（50音順，敬称略）

桑野 紗耶加，小林 蒼斗，斉藤 真理子，高橋 健史，谷口 雅彦，
東海林 柚希，那須 敦志，平塚 清隆，森崎 真美恵

事務局4人

総務部次長 金，総務課長補佐 岡田，総務課主査 安江，総務課 高島
傍聴者1人（市民0人，報道1人）

- 議 事：1 年表について
2 資料の収集・選定について
3 その他

進行役欠席のため，参加者の了承を得て，事務局が進行した。

また，議事に入る前に，令和6年度に制作するデジタルアーカイブの基礎構築の内容等について，事務局から説明した。

議事1 年表について

議事2 資料の収集・選定について

議事1，議事2は関連があるため，事務局から一括して説明。

参加者の発言等は次のとおり。

【参加者】

年表作成のイメージができて，楽しそうと感じた。年表の分野に強みのある各団体を巻き込み，書いてもらうなどしながら作成できると良いと感じた。

また，和暦と西暦どちらも載せるとデジタルの良さが生かされる。

【参加者】

年表は事例のデジタルアーカイブでイメージできたが，同じ様にキーワードで検索，例えば「買物公園」などと検索し，買物公園の歴史が羅列して閲覧できるようになると，テーマで学習する際にとっても有用であると感じた。

【参加者】

令和6年度にも既存の市史を基に年表を構築するとのことだが，これらの年表はかなり詳細

で掲載事項が多い。これに対して、市史にまとめられていない年代の年表作成の参考にする記念誌などの内容は、市史と比べると情報が少ない。これはこれで良しとするのか。あるいは、既存市史を基に作成した年表の方の情報を間引きするのか、伺っておきたい。

また、分野の説明があったが、人口の変遷や、町の工業地帯、災害等の事項もどれかの分野に入るのか、その他という扱いになるのかはわからないが、視点としてあると良いと考える。

【事務局】

『新旭川市史』の年表を全部そのまま載せると、その後の年表作成を続けていくのが大変ではないかといった意見を、ほかの方からも伺っている。とはいえ、間引きするにしても大変な作業であると考えているところ。

2つ考え方があっており、市史に基づいて一旦そのまま作り、後に作る続きの年表の量とバランスを合わせて調整するか、あるいは、市史を基にした昭和20年までの年表と、これから作成する昭和20年以降の年表とでは情報量のバランスを欠いているが、作成の趣旨や観点が異なる旨の説明を入れた上でそのまま載せるか。いずれにしても見やすくなるように検討していく考えである。

【参加者】

まずは旭川市の歴史の流れをしっかりとデジタルアーカイブに載せてほしい。行政史を中心としながら、産業等、色々な肉付けをしてほしい。

また、資料を集めるときは、本来の目的を外さないでほしい。市民の興味や市外からの関心の向上といった目的があり、市民であれば災害や冬の厳しさ等に関心があったり、市外の方たちにも自然環境等に興味があったりなど、その辺りも視野に入ってくるだろうと思う。

企業の情報は教科書の編集では難しい部分もある。教育の世界では「ひと」、「もの」、「こと」という分野で情報をまとめているが、旭川市の発展に寄与した人物や、主要な施設や文化財も載せていくと良い。いずれにしても、固い部分と柔らかい部分をミックスさせてまとめていくのが良いと思う。

【参加者】

例えば、石川県金沢市では、偉人館といって、経済や政治だけではなく、企業、科学、文化等の各分野で金沢市出身の頑張った方や偉人と言われる方の資料が並んでいる。そういったものをデジタルにすることで、旭川の魅力を伝えられるのではないかと。外国人への言語対応も検討が必要。

また、『新旭川市史』の情報をベースにデジタルで公開するのであっても、当時に紙媒体で承諾を得ていても、デジタルで公開する場合には別に配慮しなければならないものもあるかもしれないので、一度確認することも大切。

写真のデジタル化は、まずは（経年劣化が懸念される）ネガ等から速やかに行うべき。原本を長く保存したけれど結局駄目になったとはならないように心がけてほしい。

【参加者】

政治行政の情報は地味なことが多いと思うが、当時の市長の名をクリックすると、現在にも関係がある事項の資料を閲覧できるなどの見せ方があると、子どもたちにも使いやすいと思う。

また、先ほどの意見で外国人に向けた話も出ていたが、小学生が使うのであれば、ひらがな対応等、読みやすい年表等もあると良い。人物に注目してまとめるのも良いと思った。

【事務局】

外国人の言語対応に関する話も出ているが、現時点では歴史情報をまとめる自体のハードルが高く、そこまで対応が回らないというのが実際のところ。将来的には必要かもしれないが、まずは日本人向けで整理していきたい。

また、ひらがなについて、学習の素材として使うことを想定すると、ある程度は学習の段階に合わせる必要があると承知している。実は、既存の記念誌でも小学生用の別冊があり、低学年でも読めるようにしていた。

デジタルアーカイブに載せるもの全ての情報で対応することは難しいが、学習に使うコンテンツについてテキストを整理することは可能と考える。

【参加者】

整理する年代について、現代まで4年かけて着手するのは良い。

それから、どの程度まで掲載するか。『新旭川市史』の年表はかなりのボリュームだが、調べ物をする立場としては、あの水準までであると非常に助かる。基本はそれを踏襲してほしいという願いだが、作業量との兼ね合いかと思う。

また、『新旭川市史』の情報量だと年表が見つらいところもあるが、デジタルなので、重要項目だけの簡略版の年表と、詳細版の年表の両方を見られるようにすることもできると思う。

それから、どれを載せるかという基準は明確に線を引ける訳ではなく、個別に判断していくしかないので、理想を言うと『新旭川市史』並にしてはどうかと考える。過去に判断したものがそこに有る訳なので、それを踏襲するのも一つの方法かと思った。

分野分けについて、『新旭川市史』の年表は「政治・行政」、「産業・経済」、「社会・文化」、「道内・国内外」の4つに別れている。基本はこれを踏襲して分けて、それぞれの年表を見られると良い。

出典について、年表項目それぞれに出典名を付けると情報が煩雑だが、『新旭川市史』は年表の後ろの出典一覧で番号を付して、その番号を年表項目に付けている。年表は入口であり、それを見てさらに知りたくなることに対応するため出典情報は必要。これも『新旭川市史』の出典を踏襲すると良いと思う。

また、どうやって史実を調べようと考えているかということ。旭川市の現代までの年表を作ったことのある出版社に、どのように調べたのか聞くと、新聞は一切使っておらず、文献だけ8人くらいで手分けして調べたとのこと。

【事務局】

『新旭川市史』の情報量を踏襲するのはなかなか難しいが、カテゴリーの考え方や分野、情

報の拾い方，出典の考え方等は基準として必要だと思う。

年表は，簡略化して見える年表がないと雑然として見えるかもしれないという話題もあったが，先ほど紹介した事例と同じ会社のシステムを使用するため，基本的にはそれと同じ様な体裁の年表になる。これだけだと大まかな流れを掴みにくいかもしれないので，これとは別に，ごく簡単に横版の概略年表を後から補っても良いかもしれないと思う。

既存市史を基に作る年表では、『新旭川市史』に出典一覧がついているため，その情報も載せることとなっている。出典そのものの文献の中身までビューア一化して添付することはできないが，出典名称の紐付けは予定している。

【参加者】

年表は順番に並んでいるが，何か興味を持とうとすると，最初から読まないとそこまでたどりつかない。ある程度の知識があると，この辺りにだいたい載っているだろうと検討がつくが，多くの市民の方に，旭川はこんなまちだった，こんないいところがあった，と自信を持って外部に発信してもらえそうなものにしてほしい。

例えば，公共交通機関の移り変わりみたいなテーマがあって，その中に電車や馬車鉄道のある風景だとかがあると非常に興味を持って見やすいのではないかと思う。今より除雪がない時代にあの狭いところに電車の交差できるようなレールを引いたらどんなことになっていたのだろうというのが写真で見て想像できる等，考えられる。

また，開村100年記念事業のときに31箇所設置された「100年の史跡・100年のゆかり案内表示板」というものがある。1990年に設置されたものだが，ステンレス製の造りでしっかりとしている。それがもっと生かされればと思う。あの情報で骨組みして肉付けていくと，ある程度の旭川の歴史が形作られるのではないのかなという気がしていて，広く知られるようになれば良いと思う。

【事務局】

既存のものを上手く活用し，歴史情報の整理を効率よく進めることも考えていく。

テーマを設定して興味深いものにしていくという意見については，次回の検討会の議題に結びつけられる。

【参加者】

こういったものを最も利用するのはどのような世代，どのような方だろうと考えた。年表はあまり知識がない方が見ると頭が痛いという感じになってしまう。ただ，そこはやはりテーマを設定して補うとか，そういう作りにして，知識のある方に向けてというよりは，多くの人へ向けて分かりやすくする方が良いと思う。

【事務局】

デジタルアーカイブは，例えば，小学生が学習に活用する，お年寄りが時代を振り返るきっかけにするなど，幅広く色々な方に利用していただきたいイメージを持っている。研究者の最低限の参考にはなっていないが，知識のないライトな利用者を突き放すような作りをする意図

はない。年表はアーカイブの背骨として大切な機能だが、年表という形では関心を持ちにくい方のための入口として、テーマ設定やコンテンツが必要と考えており、次回の検討会で内容を議論していく。

【参加者】

同様の意見として、改めてこのデジタルアーカイブは誰を対象としているかということが非常に大事な部分。『新旭川市史』は、大学教授らが関わり、研究者らの期待に応えるものである一方、小学生や一般の方には手に取りにくいものであったかもしれない。

だからこそ、お年寄りも携帯で様々検索できる時代において、まずは関心を持つきっかけづくりとして、手に取りやすく見やすい、関心の高まるような視点で作成するのが良いと思う。

内容にはネガティブな要素も含むと思うが、旭川市が行政として重要視してきたものを大事にしながらも、未来に向けたデジタルアーカイブとして見ている人が魅力を感じられるような、基本的には楽しく、面白いものをと考える。

【参加者】

説明を聞いている中で、資料の収集・選定というところと言うと、コンテンツを作るために集めていくことと、歴史に関する文献や写真、地図を調べてデジタル化することと、作業が2つあると考えている。

【事務局】

仰るとおり作業は大きく二通りある。どちらにも使える資料ばかりなら良いが、実際にはそれぞれの作業の観点で整理していくことになる。年表に紐付ける資料のほか、テーマ設定に沿って掘り下げた資料もデジタル化されるべきであり、年表の情報だけでは不足する分を、テーマの設定やコンテンツで補っていく。

【参加者】

写真の内容を「町並み・建物」、「出来事」、「人物」、「暮らし」の4つに大きく分けたときに、「暮らし」の写真が少ないというのが、資料集めをやってみての一番思うところ。

【参加者】

写真家の中には暮らしをテーマに取り組んでいた方がおり、その写真の一部が市有施設にも保管されていると聞いたことがあるが、明らかにされていない。市の協力が得られれば発掘につながるのではと考える。

【事務局】

暮らしの写真の場合は家族写真などが想定され、権利関係の整理に注意する必要がある。また、施設に保管している資料の発掘については確認しなければならないが、図書館や博物館等との連携を密に検討していく。総務課が管理している資料については機会があれば検討会メンバーに見ていただくことも考えている。

【参加者】

個人的に知っているいくつかの古い映像等の中には、著作権や許諾が確認できているものもある。一般の方に広く声をかければさらに眠っているものを掘り起こせる可能性があり、そういったものもアーカイブ化してほしい。

【事務局】

検討していくが、声のかけ方は難しい。他の自治体の話を聞いたが、広く声をかけると、集まった資料の検証に時間がかかり、本体の仕事に手を付けられなくなるとのこと。整理したい内容とタイミングで声をかける方がまとまるという助言があった。

【参加者】

地域の写真団体などが受け皿となって発掘、検証していくことも方法としては良いのではと思う。

【参加者】

多くの資料があると選定が難しい印象を受けた。デジタルアーカイブに載せられる数も限られると思うが、100～300枚となるとかなりの数であり、一般の方の写真の場合、同意書をもらう時間がかかるなど、デジタル化の作業は困難を伴うと想像する。

議事3 その他

意見・提案等の発言なし

以上